

APU国内学生後援会 2024年度 定例懇談会 大学代表挨拶

立命館アジア太平洋大学
副学長 浅野 昭人

1. APUの近況

2024年春入学式を3学部別で開催。



2024年4月1日月曜日、APUキャンパスで春の入学式を挙行之、新たに1,207名がAPUの一員となりました。入学者数は60カ国・地域出身の学部生1,097名（国内学生748名、国際学生349名）、15カ国・地域出身の大学院生27名（国際学生27名）です。なお、交換留学生・科目等履修生の受け入れ数は、28カ国・地域出身の110名（国内学生21名、国際学生89名）です。



APUの近況

地域との共生

別府温泉祭りに参加。



日本に初めて来た学生は、災害時に自ら命を守れる行動ができているのか？。

「学生たちが地域の防災について取り組む」

- ☞ 防災の観点で自身の周りの状態をチェックしてもらう。
- ☞ いざというときの防災活動のイメージをもってもらう。
- ☞ 防災行動に繋がる関連品を手にとって携帯してもらう。

製作することを決めた内容

(1) 防災リーフレット
サイズ：H80mm×W50mm
(財布に入れて携帯可能)



- ◎日常的に携帯できる
- ◎イラスト中心 (文字要素は少なく)
- ◎わかりやすいデザイン
- ◎定期的な見直しができるチェックリスト作成

(2) 防災バンダナ
サイズ：W50×H50 cm



- ◎日常的に携帯できる
- ◎複数の用途に利用可能
- ◎かわいいイラストで用途を視覚的に把握
- ◎英語対応

産学官連携事業

飯塚市と九州工業大学、APUが連携協定書を締結



■ 連携の主な内容

- (1) 大学及び地域における人材育成に関すること
- (2) 大学及び地域の国際化に関すること
- (3) 地域の産業振興、経済活性化に関すること
- (4) 産学官連携、社会連携、研究交流に関すること
- (5) その他、本協定の目的を達成するため必要な事項に関すること

飯塚市にて九工大と一緒にボランティア活動

天皇杯・皇后杯第40回飯塚国際車いすテニス大会でボランティアに参加





後援会学生生活支援事業『100円朝食』

【2024年4月（4/8～30日）の実績】

- 利用数 5,598人
（国内学生：4,056名・国際学生1,542名）
- 補助額
 - ・朝食S 400円 ⇒ 100円提供（300円補助）
 - ・朝食M 421円 ⇒ 100円提供（321円補助）



新たな取組『特命副学長募集』！！

特命 副学長 募集

高校生

高校生 特命副学長

役割/活動

- 地域と文化を越えた同世代の仲間と共に、これからの新しい大学像、教育の未来像につながるような政策・企画の立案
- 必要に応じた外部機関（教育機関、企業、市町村自治体）へのヒアリングや連携
- 活動に関する情報発信と、学内外の各種イベントへの参加、発表、取材対応
- 在校生特命副学長との連携
- 普段の活動は学業に影響でない範囲で、通常の活動は平日や週末、長期休暇期間を活用し、外部組織や大学と月に一回程度の打ち合わせの可能性があります。

高校生 サミットメンバー

役割/活動

- 高校生副学長とともに、これからの新しい大学像、教育の未来像につながるような政策・企画の立案
- 必要に応じた外部機関（教育機関、企業、市町村自治体）へのヒアリングや連携
- 活動に関する情報発信と、学内外の各種イベントへの参加、発表、取材対応
- 普段の活動は学業に影響でない範囲で、通常の活動は平日や週末、長期休暇期間を活用し、外部組織や大学と月に一回程度の打ち合わせの可能性があります。

在校生

在校生 特命副学長

役割/活動

- APUのあるべき姿を考え、それにつながる新たな政策、企画の立案
- 必要に応じた外部機関（教育機関、企業、市町村自治体）へのヒアリングや連携
- 大学評議会（大学の最高意思決定機関）への提言
- 活動に関する情報発信と、学内外の各種イベントへの参加、発表、取材対応
- 高校生特命副学長との連携

在校生 サミットメンバー

役割/活動

- 在校生副学長とともに、APUのあるべき姿を考え、それにつながる新たな政策、企画の立案
- 必要に応じた外部機関（教育機関、企業、市町村自治体）との連携
- 在校生副学長と連携し、大学評議会への定期的な出席
- 学内外の各種イベントへの参加、発表、取材対応

FUTURE VISIONARY VICE
PRESIDENT RECRUITMENT

ないものはつくればいい。

大学はもっとおもしろくなる。

2. APUの概要と今後の展望

基本情報



大学名 : 立命館アジア太平洋大学
Ritsumeikan Asia Pasific University
所在地 : 〒874-8577 大分県別府市十文字原1-1
開学 : 2000年4月学部、2003年4月大学院開設
設置者 : 学校法人立命館（大分県、別府市との公私協力による）

学生数 : 6,252名（大学院生、非正規生含む）
教員数 : 200名（専任教員のみ）
職員数 : 224名（契約職員含む）

2023年11月1日付

APUの理念・ミッション

立命館アジア太平洋大学開学宣言

自由・平和・
ヒューマニティ

国際相互
理解

アジア太平洋の
未来創造

人類は有史以来、地球上のさまざまな地域において自らの文化を築き、文明の進化を求めて多様な営みを繰り広げてきた。

人類はまた、さまざまな制約と障壁を超えて、自由と平和とヒューマニティの実現を求め、望ましい社会のあり方を追求してきた。

20世紀は政治・経済・文化のすべての領域においてかつてない進歩と飛躍の時代であり、人間の諸活動は地球的規模で展開されるに至った。また、二度にわたる世界大戦の経験を通して、国際連合をはじめとする国際協力のための機関が設立され、平和維持と国際理解に向けての取り組みが大きく前進した。

我々は、21世紀の来るべき地球社会を展望する時、アジア太平洋地域の平和的で持続可能な発展と、人間と自然、多様な文化の共生が不可欠であると認識する。この認識に立ち、我々は、いまここにアジア太平洋の未来創造に貢献する有為の人材の

養成と新たな学問の創造のために立命館アジア太平洋大学を設立する。

立命館アジア太平洋大学は、「自由・平和・ヒューマニティ」、「国際相互理解」、「アジア太平洋の未来創造」を基本理念として、2000年4月1日、大分県と別府市、さらに国内外の広範な人々の協力を得て、別府市十文字原に誕生した。世界各国・地域から未来を担う若者が集い、ともに学び、生活し、相互の文化や習慣を理解し合い、人類共通の目標を目指す知的創造の場として、立命館アジア太平洋大学の開学をここに宣言する。

多文化共生型キャンパス

世界 **109** カ国・地域からの
国際学生2,978名と国内学生3,080名
合計6,252名が学ぶ国際大学
(2023年11月1日付/学部生、大学院生、交換留学生などの非正規生含む)

開学以来、学生が在籍
したことがある国・地域

168

学生数のうち
外国人留学生比率 **47.6%**

外国人留学生のうち
正規生比率 **96.3%**

教員総数 **200**名

外国籍教員総数 **90**名

外国籍教員比率 **45%**

※教員総数は専任の教授、准教授、助教、講師の合計
(2024年5月1日付)



学部・大学院

APS

アジア太平洋学部

入学定員 510名/年

文化・社会・メディア

グローバル経済

国際関係

ST

サステナビリティ観光学部

入学定員 350名/年

環境学

資源マネジメント

国際開発

地域づくり

社会企業

観光学

データサイエンスと情報システム

ホスピタリティ産業

観光産業

国際経営学部

入学定員 610名/年

経営戦略・リーダーシップ

マーケティング

会計・ファイナンス

アントレプレナーシップ・
オペレーションマインド

APM

学部

学部

GSA

アジア太平洋研究科 博士前期課程

入学定員 120名/年

アジア太平洋研究科 博士後期課程

入学定員 30名/年

国際学生が約半数

英語・日本語を徹底的に
鍛える言語教育

約半数を占める外国籍教員から
世界の「いま」を学ぶ

学部は日英二言語、
大学院は英語のみで開講

経営管理研究科（修士課程）

入学定員 80名/年

GSM

大学院

大学院

多彩なアクティブ・ラーニング

国内・外、短期・長期と多様なプログラム

日本人学生は卒業までに一度は海外での学びを体験することを目指す

DIFFERENT CULTURE

異文化を体験する

FIRST

1回生向け異文化体験学習プログラム

- ▶ 言葉の通じない国・地域で調査を行う新入生対象のプログラム



SPECIALTY

専門を学ぶ

交換留学・共同学位

- ▶ 交換留学では、現地の学生とともに専門の科目を履修



LANGUAGE

言語運用能力を高める

言語イマージョン

海外言語集中研修

- ▶ 海外の大学のキャンパスや大学付属の語学学校などで集中的に学習



フィールド・スタディ

専門分野調査研究型プログラム

- ▶ 専門分野の理解を深めるために、現地で調査と研究を行う



国際教育寮 APハウス1・2・5(キャンパス内)

違いを知る。認める。そのうえで課題について
とことん話し合い、
「解決策」を導き出す力を育む



53カ国・地域 1,168名がともに暮らす

寮生の国際学生比率 **39.6%**

2023年5月1日現在

シングルタイプ シェアタイプ ユニバーサルタイプ
1,186室 + 378室 7室 = 1,571名 収容可能

VALUES

互いの生活習慣や
価値観の違いを知る

- ▶ シェアタイプは日本人学生と国際学生が隣り合わせ
- ▶ 共同キッチンで互いの国・地域の食文化に触れる



NOURISH

学び合い、
助け合う心を養う

- ▶ 日常生活の空間で他言語・多言語学習
- ▶ 授業やレポートの教え合い・学び合い
- ▶ 毎月フロアミーティングを実施



RULE

ルールを作り、
学生スタッフが運営

- ▶ RA (レジデント・アシスタント) が寮生をサポート
- ▶ 各種イベントの企画・運営
- ▶ フロアを巡回、ゴミ分別チェック



EVENT

イベントを通じて交流を深める

- ▶ フロアや棟ごとにパーティーやイベントを開催
- ▶ 各国の文化を紹介する企画 ▶ 世界祭(寮祭)の実施
- ▶ 広島・沖縄などを目的地にし、「平和」がテーマのツアーを開催



APハウス3・4 (APU Plaza Oita) はオフキャンパスにあります。

国際ボランティア・地域交流

国際ボランティア

現地で、現地の人とともに、
現地が抱える問題の解決に取り組む

- ▶ 戦争や紛争で傷ついた子ども達に治療の機会を提供



- ▶ 途上国の住環境改善をめざして住宅建設サポート



地域交流

日本や地域の文化に対する理解を
深めるとともに、地域の活性化に貢献

- ▶ 地域のお祭りや行事への参加、市民講座などでの異文化交流を通じて、
地域社会とともに成長する



2023年度進路状況

		国内学生	国際学生	合計	アジア太平洋学部	国際経営学部	大学院	合計
卒業生・修了者 ¹		610	538	1,148	571	577	97	1,245
卒業生進路内訳	就職決定報告者	489	256	745	372	373	57	802
	進学者 ²	24	71	95	46	49	3	98
	帰国/その他 ³	97	211	308	153	155	37	345

例) 1. 卒業生・修了者…2023年9月、2024年3月学部卒業生・大学院修了者（国際学生含む） / 2. 進学者…大学院・大学進学者 / 3. 帰国・その他…帰国、進学・資格試験の受験準備、就職活動継続、留学、専門学校、家事従事など

2023年度
就職決定率

就職決定率 = 就職決定報告者 /
就職希望者 (2024年3月31日現在)

90.5%

国内学生
就職決定率

95.1%

国際学生
就職決定率

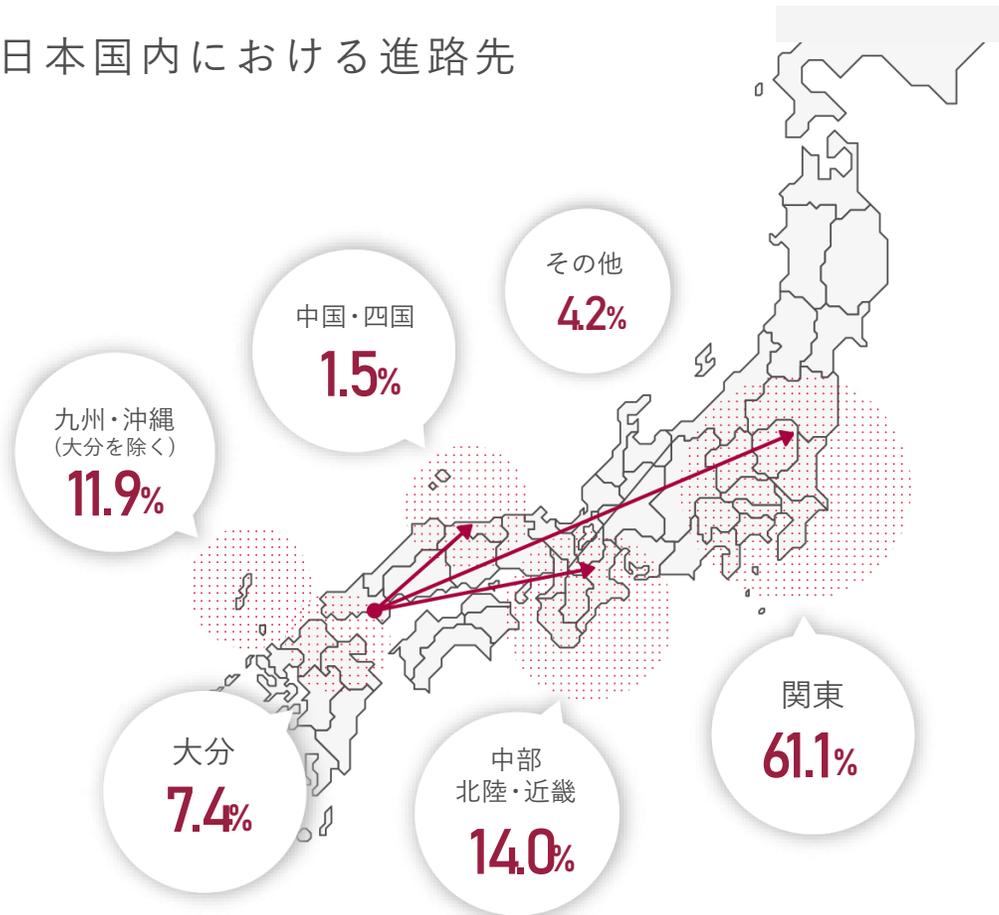
82.8%

地域別・業種別就職者割合

国を越える

コミュニケーション力・積極性・協働性に高評価

▶ 日本国内における進路先



国内学生 ▶

グローバル企業を通じて全世界へ

国際学生 ▶

日本企業 or 母国へ

▶ オンラインリクルーティング

APU学生を対象に企業説明会・採用選考会等を学内で行います。
多くの採用につながっています。



製造業	: 9.2%	サービス	: 40.1%
情報通信業	: 13.4%	公務	: 3.3%
卸売業/小売業	: 13.4%	その他	: 17.1%
金融業/保険業	: 3.5%		

その他には、外国企業・業種不明者・ならびに家業従事者、起業を含む

3つの重点目標（2021年～2030年）



多文化共生キャンパス

APUは、比類ない多国籍・多文化環境を活かして、世界市民として成長するための学習や活動の機会及び生活環境を提供し、世界に誇るグローバル・ラーニング・コミュニティを創成します。



グローバル・ラーニング

APUは、教育・研究の質を絶え間なく向上させ、世界で通用する新たなグローバル・ラーニングの価値を創造し、世界に通用する研究を発信します。



地域連携

APUは、世界中の卒業生、世界各地の地域社会、各種ステークホルダーとのつながりを深化させ、教育活動や大学運営で協働します。

APU Brings Light to Humanity
混迷する世界に光をもたらすAPU

利害の対立・戦争・紛争・
民族対立

利害を無視した融和ではなく、利害
対立を見据えた対話と相互理解をも
たらす人が求められる

APUが

Bridge-Buildersを育成する

- より高次の理想/理念を持つ
- 相互のRespectを実現できる
Communicators
- 教育の場だから超えられる対立

Social
Impact

APU コアバリュー
「Diversity」

多文化協働の大前提としての
真の相互理解

Mutual Respect & Empathy
Reason & Tolerance

Social
Impact

Social
Impact

地球規模での人類の課題

個人・企業・国家による利益追求の
限界
エシカルなアクションの必要性

APUが

Future-Buildersを育成する

- 人類全体の common interests への
理解と高次の理想/理念
- アイデアを現実化できるイノ
ベーター/ファシリテーター

多様な社会編成原理と Diversity の追求

"National"(国民国家) の均一な文化形成の終焉
社会における混乱

APU が **D&I Resource Persons** を育成する

- D&Iとは、社会正義であると同時に、イノベーションの創出基
盤である
- 求められるD&Iの定義とD&I人材育成のメソドロジーの確立
- APUは、学生だけでなく、地域社会や企業や学校に変革をもた
らすことができる

シンギュラリティへの準備

教育のトランスフォーメーション

APUが**Digital Innovators**を育成する

- **Innovation**の創出と実装
- テクノロジーを駆使した、学びの環境
- 文理の枠を超えた、協働のコミュニティの拡大
- ICT教育の抜本的な強化

Global から Diversity and Inclusion へ

Leap Beyond Global、Leap to D&I

大学の姿を変えることで、APUが世界を変える。
D&Iを通じて、世界を変える。

APUのこれまでの到達点 = 世界に誇る多国籍・多文化環境を活かした、リビング&ラーニングコミュニティの実現

- 2000年の開学において、全く新しい大学の「国際化」を示し、実行。全学（学部・大学院）での多文化共修
- 開学以降、5つの50を維持。100を超える国・地域からの学生の恒常的な受け入れ
- 100を超える国・地域からの学生が共に学び、生活し、活動する仕組みと、それを通じた学生の成長に取り組んできた実績

これまでの到達点は、未だAPUの強みとして他の追随を許さないもの。この上にさらに広義な多様性を包含するD&Iを大学の価値としてさらに置くことで、世界でもAPUしかできないD&Iの実践と人材育成を行うこと、またこのD&Iの切り口から、社会課題を解決し、世界をよりよく変えることを目指す

APUを、D&Iが具現・実践される究極の場とする

具体的施策案：D&Iの実践・人材育成・研究

Diversity and Inclusion の実践と、人材育成

D&I人材育成：多様な属性の構成員で形作られる社会やビジネス環境がデフォルトになりつつある今、社会から求められるのは、D&Iマネジメントができる人材、D&Iの観点から課題解決ができる人材

✓ 高度なD&I人材育成の教育モデル開発とその提供

- ・高度D&I人材育成のモデル・手法を開発し、国内外での企業や各種機関・コミュニティへ広く展開する（=D&IといえばAPUというブランド）
- ・既存の企業研修プログラムの刷新：ダイバーシティ&インクルージョン・マネジメントをテーマにしたカリキュラムへの刷新

✓ D&Iを軸としたリビング・ラボとしてのキャンパスづくり

- ・キャンパス全体を、インクルーシブ（多国籍）な環境で各種実装実験を可能とする「リビング・ラボ」化する。アクセシビリティや多言語環境等、インクルーシブな社会をつくることを目的として、多様な技術や仕組みを「見える、使える」キャンパスとする。
- ・Diversity環境でのリビング&ラーニングの環境を活かした、人材育成の観点からの寮の活用（社会人やステークホルダーが寮のコミュニティに参画）→寮のリビング・イノベーション拠点化（寮自体がイノベーションの場となる）

ソーシャルインパクトの最大化

多文化（国籍の多様性）から、**ライフロング・ラーナー**（あらゆる属性の多様性）へ

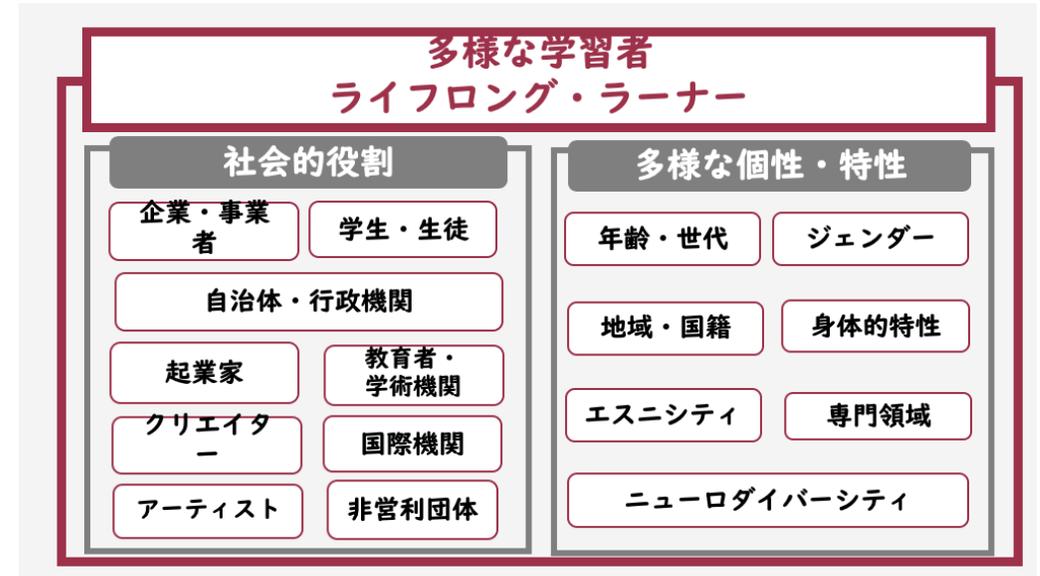
現在の大学

- ・18歳～22歳（または25歳）の大学生・大学院生
- ・教職員



新APUが関わる「人」：**ライフロング・ラーナー (LLL)**

- ・18歳～22歳（または25歳）の大学生・大学院生
- ・教職員
- ・企業（法人＋構成員個人）、実務家、
- ・NGO・各種機関・各地のコミュニティー
- ・卒業生
- ・多様な社会的属性、身体的特性をもつ人たち



学生：LLL = 50（6,000）：50（6,000）を目指す

地理的（国籍・出身地域）なDiversity + 時間軸・社会的役割のDiversityへ

具体的施策:九州工業大学・飯塚市との連携

育成する人材像・連携施策

グローバル理系人材の育成

グローバル環境で活躍し、経営マインドをもった科学技術人材
科学技術を駆使し社会実装をリードするグローバル人材

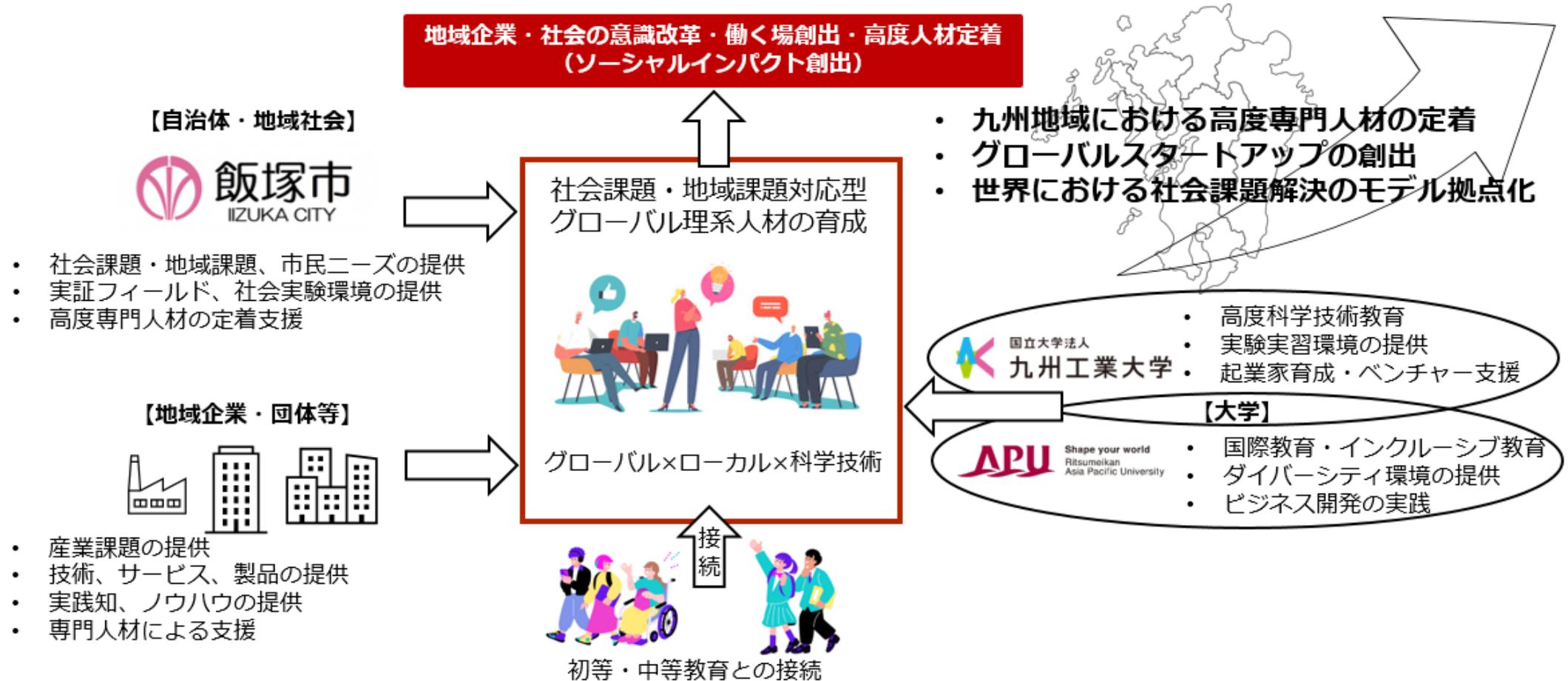
三者連携による施策のイメージ

- APU、九州工業大学の教育・研究連携
- 飯塚市の地域課題をテーマにした課題解決型学習（PBL）の実施
- 初等・中等教育と大学が連携したSTEM教育／グローバル教育の実践
- 社会人教育の提供
- 産学官連携によるグローバルに展開する共創の場の創成



具体的施策:九州工業大学・飯塚市との連携

三者連携のスキーム



A group of approximately 20 people, including men and women, are standing in a line on a paved area in front of a modern building with large glass windows. They are dressed in formal attire, including suits, dresses, and traditional Japanese clothing like a kimono. The scene is brightly lit, suggesting an outdoor daytime setting. The text is overlaid on the image in a semi-transparent black box.

本日はご参加いただきありがとうございました。

引き続きのご支援よろしくお願い申し上げます